

<認知症対応型共同生活介護用>
<小規模多機能型居宅介護用>

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

I. 理念に基づく運営	項目数	8
1. 理念の共有		1
2. 地域との支えあい		1
3. 理念を实践するための制度の理解と活用		3
4. 理念を实践するための体制		2
5. 人材の育成と支援		0
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援		1
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応		0
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援		1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント		5
1. 一人ひとりの把握		1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し		1
3. 多機能性を活かした柔軟な支援		0
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働		3
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援		6
1. その人らしい暮らしの支援		4
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり		2
合計		20

事業所番号	1493800104
法人名	社会福祉法人 秀峰会
事業所名	春風の丘
訪問調査日	平成22年12月1日
評価確定日	平成23年1月25日
評価機関名	株式会社 R-CORPORATION

○項目番号について
外部評価は20項目です。
「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。
「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

○記入方法
[取り組みの事実]
ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。
[次ステップに向けて期待したい内容]
次ステップに向けて期待したい内容について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明
家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
家族 = 家族に限定しています。
運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。
職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。
チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

平成 22 年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1493800104	事業の開始年月日	平成20年2月1日	
		指定年月日	平成20年2月1日	
法人名	社会福祉法人 秀峰会			
事業所名	グループホーム 春風の丘			
所在地	(224-0014) 横浜市都筑区牛久保東3-23-35			
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護	登録定員	名	
	<input type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	通い定員	名	
		宿泊定員	名	
		定員計	18名	
		ユニット数	2ユニット	
自己評価作成日	平成22年11月23日	評価結果 市町村受理日	平成23年5月16日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

近くには公園があり散歩には車道と分かれた遊歩道もあり安全で緑豊かな環境にあります。駅まで15分程度で大型ショッピングセンターが立ち並びの買い物も大変便利です。地域行事も参加し盆踊り・敬老会・秋祭り・消防訓練など参加しており地域交流も行なっています。ホームの庭も広く四季折々の花が咲き天気の良い日には、庭でお茶をする。医療面では24時間Dr対応で往診Drが都築区内のこともあり、直ぐ来ていただけます。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 R-CORPORATION		
所在地	〒221-0835 横浜市神奈川区鶴屋町3-30-8 S Yビル2F		
訪問調査日	平成22年12月1日	評価機関 評価決定日	平成23年1月25日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

●事業主体は社会福祉法人秀峰会で居宅サービス・地域密着型サービス・介護予防サービス・介護保険施設など幅広く運営されているその参加のグループホームであり地下鉄センター北駅から徒歩15分その間左右を緑に包まれた遊歩道を通り、大型公園を横に見ながらホーム春風の丘へとなる安全で緑豊かな環境で、且つ駅まで15分程度で大型ショッピングセンターが立ち並び生活面でも利便性に富んだ環境にある。

●管理者は地域に根付き愛されるホームを目指しており、地域との交流として盆踊り・敬老会・秋祭り・消防訓練等、行事に参加している。

●ホームでは終末期介護を行なう方針を持っていて、入居者や家族の要望を受けて、応えることを全スタッフに説明を行ない、医療機関とも連携を図って体制を整えている。

●医療面では24時間Dr対応で往診Drが都築区内のこともあり、直ぐ来て頂ける体制にある。

●明治の文芸評論家「高山樗牛」の言葉「天に星」「地に花」「人に愛」天にありては星、地にありては花、人にありては愛、これ美しき物の最たらずや。を法人理念とし、傘下各事業に反映し、この心を受け、ホーム春風の丘のスタッフには研修などを通じて理解共有されている。そして、笑顔が絶えないサービス提供が実践されている。

●ホームの庭も広く、四季折々の花が咲き、天気の良い日には庭でお茶をする穏かな光景がある。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	春風の丘
ユニット名	すみれ

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の理念 1、人間が主体である 2、連帯の輪を無限に広げて行く 3、日に日に新たな今日を創造していくを日々のケアで実践していく	法人の理念 1、人間が主体である 2、連帯の輪を無限に広げて行く 3、日に日に新たな今日を創造していくが印刷された手帳を全職員が常に携帯し、毎朝礼時に唱和し、共有認識を図っている。介護時に悩み、迷いが生じた時等には、理念を読み返して、日々のケアで実践している。	今後の継続
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	法人の理念を踏まえ、自治会にも加入し、地域住民の方との相互交流を推進している。事業所イベントへの案内や地域の敬老会の行事へも利用者参加を行っている	自治会に加入し、地域の祭りや盆踊りに参加し、相互交流を推進している。本年は、盆踊り時に出店も計画したいと考えている。また、入居者の散歩時には声をかけ、挨拶でホームを知ってもらうようにしている。現在ベルマークでプルトップを貯めて、小学校に贈呈する等、繋がりを持ち、交流に向けて準備をしている。更に、地域に事業所のイベント案内や地域の敬老会の行事へも利用者が参加して、交流が行なわれている。	今後の継続
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	施設見学や職場体験などを通じ認知症の方へアプローチの仕方を伝えている		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議において話しあわれた事柄を職員間で共有し、日々のケアに活かせるようにしている	2ヶ月に1回、自治会長、民生委員、包括支援センター職員、家族、事業所管理者、職員の参加で運営推進会議が開催されホーム概況と今後の行事計画を報告し、参加者から意見や提案などを頂いている。入居者の習い事希望に沿えるボランティアの要請や災害時協力をお願いをして会議の結果は議事録で職員間の共有を図っている。	今後の継続
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域包括センター職員に運営推進会議へ参加して頂き現状の報告を行い意見を聞いている	地域包括センター職員に運営推進会議へ参加して頂き、ホームの現状の報告により概ね状況は理解頂いている事から、ホームでの諸問題として入浴拒否者の対応として意見を聞いて相談したりしている。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	夜間帯を除き、基本的に施錠は行っていません 会議で身体拘束の定義や事例を話しあい、日々の業務に照らし合わせて認識を深めるようにしています	管理者をはじめ全職員は、運営規定に記された内容や拘束0の手引きの内容を、研修や勉強会で理解していて、身体拘束のデメリットなども承知している。玄関は夜間帯を除き、施錠は行っていない。再度日々の業務を見直し、拘束ゼロの認識を深め、ケアで実践すべく取り組みを行なっている。	今後の継続
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待の定義を認識し、事例検討する事で、職員自身のケアと照らし合わせる事で認識し、防止に努めている		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者を対象とした研修で権利を擁護について学び職員への周知を行っている。青年後見人制度の利用をされているご家族への資料の提供と相談に応じて居る		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居利用の希望をされた時点で契約の必要性や解約に該当する事例等の説明を行っています		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進委員会での代表者の方の意見や、面会時に意見を伺い反映させている	ホームでは家族の来訪時に、こちらから声をかけて、入居者の日々の暮らしぶりの報告に加え意見要望等も聴き、記録に留め会議で検討の上、フィードバックと共に運営に反映するようにしている。更に、運営推進委員会での代表者の方の意見や要望等も同様、検討の上反映するようにしている。	今後の継続

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的に全体カンファレンスを行い意見や提案を聞く機会を設けており、参加者の多数意見を運営に反映させている	管理者は日頃から職員に話しかけることを心して、話題を投げかけや、そこから意見要望等を吸い上げている。更に、定期的に全体カンファレンスを行い、意見や提案を聞く機会を設けており、職員からの多数意見を運営に反映させている。	今後の継続
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回の全職員の「現状と未来」・正職員「人事考課」提出にて此処の現状や将来への計画等を直接面談にて聞きとり、昇給・昇格へ反映できるように努めている		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員個々のスキルにあったケアができていないか把握した上で、必要な研修の案内を行い、参加できるように勤務調整を行っている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	法人内のGH職員との交流をもつ機会があり、情報の交換を行っている。又事業部研修を行い相互のサービス向上に努めている		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	御本人の施設見学時に要望を聞き受け答えの表情も含めて安心して頂けるように接し良好な関係が築けるように努めている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学や契約の折に状況を聞く機会を設け、御家族の不安が最小限になるように努めている			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	心身の状態は一定ではない事を踏まえ、将来の変化を予測することも必要だが、現段階で何が必要で、何ができるかを考慮した支援に努めている			
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	御本人の意思を確認した上で日常生活の中での家事的な場面に参加し職員と共に活動して頂くようにしている			
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	御家族と職員と双方が協力することで御本人が安心して生活していかれる事を説明し御協力頂いている。中には数名御家族と御本人の関係が難しい方もいる			
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	在宅時の御友人や近隣の方、利用医療機関の関係を継続できるように支援していきます	在宅時の友人や近隣の方との馴染みの関係継続や、利用医療機関の関係を継続できるように支援に努めている。面会希望や電話などには、本人及び家族の確認の上、支援するようにしている。	今後の継続	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	共有スペースで同席時に職員が介入することで、コミュニケーションがスムーズに図れる様に努めている		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後の入所先への訪問や施設あてに届いた郵便物の転送等の手配を行い、必要に応じて電話連絡も行っている		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	個々の方との会話を通じて御本人の意思を把握し、状況の確認を行い御本人にとっての最善策を検討している	利用者との日常の会話から、個々の思いや意向を把握するようにしている。又、思うように会話が行なえない方にも、寄り添ってその方の仕草や表情から汲み取るように努め、更には家族の意見等も合わせ、把握に努めている。結果検討の上、可能な限り思いに添えるよう、時には家族の協力も得て、支援を行うように努めている。	今後の継続
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に生活歴・サービス利用等の状況を御本人や御家族から情報収集を行っている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の職員の申し送りにて個々の最新の心身の状態を把握できるように努めている		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的な職員カンファレンス等で入居者個々の情報交換をする事で最新の現状を把握し、必要に応じて御家族や医療へ相談し介護計画に反映できるように努めている	日々の観察の記録に基づき、全職員参加の定期的カンファレンス等で、入居者個々の情報交換を行ない、最新の状況を把握し、必要に応じて家族や医療関係者にも相談して介護計画に反映し計画を作成している。立案された介護計画はケアを通じてモニタリングして居る。	今後の継続
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の個人記録への記載事項を共有し、ケアの実践や介護計画の見直しに反映させている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	御本人や御家族を取り巻く状況の変化に応じて、行政のサービスや利用可能な民間のサービスの紹介をおこなっている		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のボランティアの方に依頼することで、ホームにて多彩な活動（ちぎり絵・カラーボード・墨絵）を行い入居者さんの生活が豊かになるように支援している		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業所の協力医療機関による訪問診療をりようするが主で、必要な時に適切な医療を受けられる様に支援しています	入居時にかかりつけ医の有無と継続意思を確認し、継続希望者にはホームでの介護情報の提供を行い、診療結果は家族経由で伝え、職員で共有している。事業所の協力医療機関による訪問診療の希望者には、必要な時に適切な医療を受けられる様に支援している。	今後の継続

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員が週2回勤務しており、それ以外に異変や変化があった場合は関係医療機関に受診して頂ける様に支援しています		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時の必要情報を関係医療機関に対して速やかに伝えるようにしています、又個々の希望される受け入れ機関の医療情報を整理しています		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期に関わる指針を示し説明、同意書に事業所の対応等の確認事項を記載し同意を得ている、チームについては関係医療機関と連携している	ホームとして終末期介護を行なう方針を全職員間で共有できている。入居者家族及び本人に重度化や終末期に関わる指針と事業所が対応できる事を説明して、同意書を持って確認同意を得ている。終末期介護を行なうにあたり、ホームと医療機関と家族間での繰り返しの検討を行い、支援に当たっている。	今後の継続
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアルを作成し各職員へ配布と共に、横浜市の救命講習の受講をし、実践力を養っている。訓練は随時で職員研修に織込んでいます。不定期で行っている		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の定期的訓練を行っています。又、町内会の防災訓練に参加し情報交換と相互の協力体制を確認している	入居者を交えての火災避難訓練は年2回行っており、倉庫には水、缶詰、など三日分の食料に加え毛布、トイレ、乾電池などが蓄えられている。また、町内会の防災訓練にも参加し、情報交換と相互の協力体制を確立している。今後、最寄消防局の指導で夜間を想定した訓練の実施を行なう予定をしている。	今後の継続

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	共同生活の場であっても団体行動ではないことを念頭に置き、個人を尊重した言葉かけを行い、プライバシーに配慮した支援を行っている	入居者を人生の先輩として敬い、日々の介護でのトイレ誘導や食事介護支援と、様々な場面において、常に個人を尊重した言葉かけで支援して、決してその人の人格の尊厳を損なうような全職員が自覚認識している。プライバシーにも配慮した支援も行っている。	今後の継続
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者が随時に職員に希望を伝えられる環境を設定し、職員側の話を傾聴し利用者本人が自己決定できるように働きかける		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホーム全体での活動への参加も個人の自己決定を尊重し、無理強いする事のないように配慮している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者個々の個性を尊重し、衣類の自己決定が難しい方への支援にも「その方らしさ」が反映できるように思案している		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の内容はもとより、BGMや座席や職員の配置等の環境作りにも配慮している。準備や片づけ等への参加は働きかけはするが、絶対参加では行っていない	現在一時的に、配食業者の供給を受けて職員の調理で食事が作られている。BGMや個々人の座席に加え、職員の配置等も考慮している。入居者による盛り付け、配膳、下膳が出来る人が自発的に行なって、刻み食など一人ひとりに合わせた調理方法の食事で、談笑を交え入居者のペースで行なわれている事を食事同席で確認出来た。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	3回の食事・10時・15時の水分補給と個々の方の食事摂取量に応じて間食等で補える様に支援し、居室内で嗜好品を楽しめるように支援している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に個々のレベルにあった口腔ケアの支援を行っている		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	個々の排泄パターンを認識し、身体や状況に応じた排泄の支援をおこなっている	日々の介護で、一人ひとりの排泄パターンを記録にして全職員で共有し、時間を見計らってのさり気ない声かけ誘導が行なわれており、オムツ使用をなくす取り組みが行われている。また、夜間においても同様の支援をしている。	今後の継続
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	知識として便秘の理解を行い、個々の排便のチェック表を活用し、改善に取り組んでいる		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴の間隔が3・4日空かないように言葉かけは行うが対象となる方の意思を随時尊重し、職員側の都合に利用者が合わせる事のないように配慮している	入浴が3日も4日も空かない様に管理し、言葉かけを行いながら支援している。また、嫌がる方には時間をずらしての誘いや人を変えての誘いを行なっている。入浴が清潔保持のみならず身体観察での健康管理上大きな役割がある事を理解して、誘導支援をしている。又、季節を味わえる菖蒲湯や柚子湯で入浴が楽しめるようにも支援している。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間の安眠は勿論の事、昼寝の習慣や時々個々の身体状況に応じて安心して休息できるように支援している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	受診後の処方薬の情報を職員が共有し理解に努める。又、服薬の管理と症状の変化も様子観察を行っている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常生活の中で個々の方が「楽しい」と感じられる事を提供できるように心がけて支援を行っている		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日中の入居者の動きに注意していて外出希望があれば出来るだけ要望を聞き散歩や買い物等に誘うようにしている。特別な場所への希望は御家族の御協力をいただき支援している	天気の良い日には入居者の希望を聴き、健康チェックを行ってからホーム近くの散歩コースに外かけている。散歩に加えて買い物等にも誘うようにしている。普段行けない特別な場所への希望は、ご家族の協力を頂きながら支援している。	今後の継続
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個々の判断能力のレベルによりホーム預かりや個人の現金所有として支援している。又、買い物依頼への支払いも御家族の了解を得た上で柔軟に対応している		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	事務所の固定電話を使用し、御本人からの申し出や外線電話の取り次ぎ行い、手紙の投函等の支援を行っている		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間に集う方が不快感を持たず、又、混乱を起こす事がないように配慮し、季節を感じられるように時節の飾りや掲示をおこなっている	春風の丘は、平屋構造から各人の居室を出ると、そこが共有空間のリビング兼食堂となっていて、キッチン、スタッフルーム、玄関、風呂、トイレと繋がっており、リビング正面の大きなガラス戸を出ると、花や野菜が植えられた庭に出られる。そこからの採光は良くルーム内はとても明るい。また、掃除が行き届いており、異音や異臭もなく、ソファーに集う方が不快感を持たず、また、時節の飾りや生け花で季節が感じられるよう工夫がされ、居心地良く配慮している。	今後の継続
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブルやソファの配置を工夫することで、個々の方が自由に共有空間で過ごせるように工夫している		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	個々の居室内で安心して過ごせるように家具や愛玩物を配置して御本人が居心地よく過ごせるように工夫している	入居者は使い慣れた整理ダンス、鏡台、椅子、仏壇等と共に、手作りの作品や家族写真、縫いぐるみなどで自分の部屋が思いの設えで演出されていて、居心地よく過ごせる工夫をしている。	今後の継続
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレへの経路や表示を行うことで認識できる方の自立を促し、見守りを行うことで安全を確保できるように工夫している		

事業所名	春風の丘
ユニット名	たんぽぽ

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な区過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の理念 1、人間が主体である 2、連帯の輪を無限に広げて行く 3、日に日に新たな今日を創造していくを日々のケアで実践していく		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	法人の理念を踏まえ、自治会にも加入し、地域住民の方との相互交流を推進している。事業所イベントへの案内や地域の敬老会の行事へも利用者参加を行っている		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	施設見学や職場体験などを通じ認知症の方へアプローチの仕方を伝えている		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議において話しあわれた事柄を職員間で共有し、日々のケアに活かせるようにしている		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域包括センター職員に運営推進会議へ参加して頂き現状の報告を行い意見を聞いている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	夜間帯を除き、基本的に施錠は行っていません 会議で身体拘束の定義や事例を話しあい、日々の業務に照らし合わせて認識を深めるようにしています		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待の定義を認識し、事例検討する事で、職員自身のケアと照らし合わせる事で認識し、防止に努めている		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者を対象とした研修で権利を擁護について学び職員への周知を行っている。青年後見人制度の利用をされているご家族への資料の提供と相談に応じて居る		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居利用の希望をされた時点で契約の必要性や解約に該当する事例等の説明を行っています		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進委員会での代表者の方の意見や、面会時に意見を伺い反映させている		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的に全体カンファレンスを行い意見や提案を聞く機会を設けており、参加者の多数意見を運営に反映させている		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回の全職員の「現状と未来」・正職員「人事考課」提出にて此処の現状や将来への計画等を直接面談にて聞きとり、昇給・昇格へ反映できるように努めている		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員個々のスキルにあったケアができていないか把握した上で、必要な研修の案内を行い、参加できるように勤務調整を行っている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	法人内のGH職員との交流をもつ機会があり、情報の交換を行っている。又事業部研修を行い相互のサービス向上に努めている		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	御本人の施設見学時に要望を聞き受け答えの表情も含めて安心して頂けるように接し良好な関係が築けるように努めている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学や契約の折に状況を聞く機会を設け、御家族の不安が最小限になるように努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	心身の状態は一定ではない事を踏まえ、将来の変化を予測することも必要だが、現段階で何が必要で、何ができるかを考慮した支援に努めている		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	御本人の意思を確認した上で日常生活の中での家事的な場面に参加し職員と共に活動して頂くようにしている		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	御家族と職員と双方が協力することで御本人が安心して生活していかれる事を説明し御協力頂いている。中には数名御家族と御本人の関係が難しい方もいる		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	在宅時の御友人や近隣の方、利用医療機関の関係を継続できるように支援していきます		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	共有スペースで同席時に職員が介入することで、コミュニケーションがスムーズに図れる様に努めている		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後の入所先への訪問や施設あてに届いた郵便物の転送等の手配を行い、必要に応じて電話連絡も行っている		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	個々の方との会話を通じて御本人の意思を把握し、状況の確認を行い御本人にとっての最善策を検討している		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に生活歴・サービス利用等の状況を御本人や御家族から情報収集を行っている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の職員の申し送りにて個々の最新の心身の状態を把握できるように努めている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的な職員カンファレンス等で入居者個々の情報交換をする事で最新の現状を把握し、必要に応じて御家族や医療へ相談し介護計画に反映できるように努めている		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の個人記録への記載事項を共有し、ケアの実践や介護計画の見直しに反映させている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	御本人や御家族を取り巻く状況の変化に応じて、行政のサービスや利用可能な民間のサービスの紹介をおこなっている		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のボランティアの方に依頼することで、ホームにて多彩な活動（ちぎり絵・カラーボード・墨絵）を行い入居者さんの生活が豊かになるように支援している		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業所の協力医療機関による訪問診療をりようするが主で、必要な時に適切な医療を受けられる様に支援しています		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員が週2回勤務しており、それ以外に異変や変化があった場合は関係医療機関に受診して頂ける様に支援してます		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時の必要情報を関係医療機関に対して速やかに伝えるようにしています、又個々の希望される受け入れ機関の医療情報を整理しています		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期に関わる指針を示し説明、同意書に事業所の対応等の確認事項を記載し同意を得ている、チームについては関係医療機関と連携している		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアルを作成し各職員へ配布と共に、横浜市の救命講習の受講をし、実践力を養っている。訓練は随時で職員研修に織込んでいます。不定期で行っている		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の定期的訓練を行っています。又、町内会の防災訓練に参加し情報交換と相互の協力体制を確認している		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	共同生活の場であっても団体行動ではないことを念頭に置き、個人を尊重した言葉かけを行い、プライバシーに配慮した支援を行っている		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者が随時に職員に希望を伝えられる環境を設定し、職員側の話に傾聴し利用者本人が自己決定できるように働きかける		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホーム全体での活動への参加も個人の自己決定を尊重し、無理強いする事のないように配慮している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者個々の個性を尊重し、衣類の自己決定が難しい方への支援にも「その方らしさ」が反映できるように思案している		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の内容はもとより、BGMや座席や職員の配置等の環境作りにも配慮している。準備や片づけ等への参加は働きかけはするが、絶対参加では行っていない		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	3回の食事・10時・15時の水分補給と個々の方の食事摂取量に応じて間食等で補える様に支援し、居室内で嗜好品を楽しめるように支援している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に個々のレベルにあった口腔ケアの支援を行っている		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	個々の排泄パターンを認識し、身体や状況に応じた排泄の支援をおこなっている		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	知識として便秘の理解を行い、個々の排便のチェック表を活用し、改善に取り組んでいる		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴の間隔が3・4日空かないように言葉かけは行うが対象となる方の意思を随時尊重し、職員側の都合に利用者が合わせる事のないように配慮している		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間の安眠は勿論の事、昼寝の習慣や時々個々の身体状況に応じて安心して休息できるように支援している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	受診後の処方薬の情報を職員が共有し理解に努める。又、服薬の管理と症状の変化も様子観察を行っている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常生活の中で個々の方が「楽しい」と感じられる事を提供できるように心がけて支援を行っている		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日中の入居者の動きに注意していて外出希望があれば出来るだけ要望を聞き散歩や買い物等に誘うようにしている。特別な場所への希望は御家族の御協力をいただき支援している		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個々の判断能力のレベルによりホーム預かりや個人の現金所有として支援している。又、買い物依頼への支払いも御家族の了解を得た上で柔軟に対応している		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	事務所の固定電話を使用し、御本人からの申し出や外線電話の取り次ぎ行い、手紙の投函等の支援を行っている		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間に集う方が不快感を持たず、又、混乱を起こす事がないように配慮し、季節を感じられるように時節の飾りや掲示をおこなっている		
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブルやソファの配置を工夫することで、個々の方が自由に共有空間で過ごせるように工夫している		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	個々の居室内で安心して過ごせるように家具や愛玩物を配置して御本人が居心地よく過ごせるように工夫している		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレへの経路や表示を行うことで認識できる方の自立を促し、見守りを行うことで安全を確保できるように工夫している		

目 標 達 成 計 画

事業所 グループホーム
春風の丘

作成日 平成22年11月23日

〔目標達成計画〕

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1		町内会全行事活動の参加	入居者の筋力アップ	散歩を毎日行う	1年
2		職員不足	1ユニット3名体制	求人広告や紹介を通じ職員を確保し、教育に努める	1年
3					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。